

研 究 分 野	海洋構造	部 名	浅海環境部
研 究 課 題 名	海況予報高度化技術確立調査		
予 算 区 分	県単		
試験研究実施年度・研究期間	H.7～18		
担 当	大水 理晴		
協 力 ・ 分 担 関 係			

〈目的〉

海況自動観測システムによる観測結果と、試験船による海洋観測結果等を総合的に解析することにより、陸奥湾の海況予報技術の確立を目指す。

〈試験研究方法〉

(1) 茂浦定置観測

休日を除く毎日午前9時、茂浦地先の気象（天気、気温、気圧、風向・風力）、海象（表面水温、比重）の観測。

(2) 陸奥湾海況自動観測データ等の解析と陸奥湾海況情報の提供

〈結果の概要・要約〉

2004年の陸奥湾の海況

(1) 水温

2004年の陸奥湾の水温は、平年にくらべて、平館ブイでは1月～2月まで平年並み～やや高め、3月～4月ははなはだ低め～平年並み、5月～8月はやや高め～はなはだ高め、9月～12月は平年並み～かなり高め、青森ブイと東湾ブイでは1月はやや高め、2月～5月は平年並み～やや低め、6月～8月はやや高め～はなはだ高め、9月～10月は概ね平年並み、11月～12月はやや高め～かなり高めに推移した。

本年の陸奥湾の水温は、7月中旬～8月上旬にかけて気温が平年より高い日が続いた気象条件を反映し、8月～9月にかけては高温傾向が続いた。

(2) 塩分

塩分は年間を通して、全ブイ全層で1月～4月まで平年より低め、5月以降は平年並みに推移した。

日平均値の年間変化範囲は、全層でみて平館ブイで32.49～34.25、青森ブイで30.24～34.14、東湾ブイで31.96～34.16であった。

(3) 湾中央部底層の溶存酸素（DO）

東湾ブイの底層では7月から10月にかけて低下し、7月と10月上旬に最も低めとなった。その最低値は10月9日に観測された2.35mg/l、飽和度31.4%であった。

(4) 湾口部の流況

平館ブイ15m層、底層では年間を通じて南下流が卓越し、特に15m層では4月～9月にかけて、底層では5月～10月にかけて強勢に推移した。

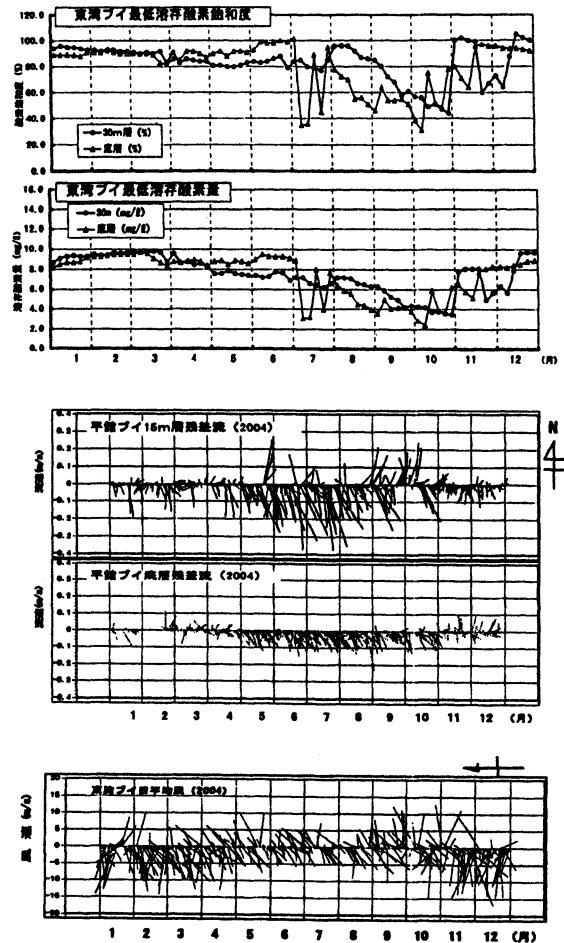
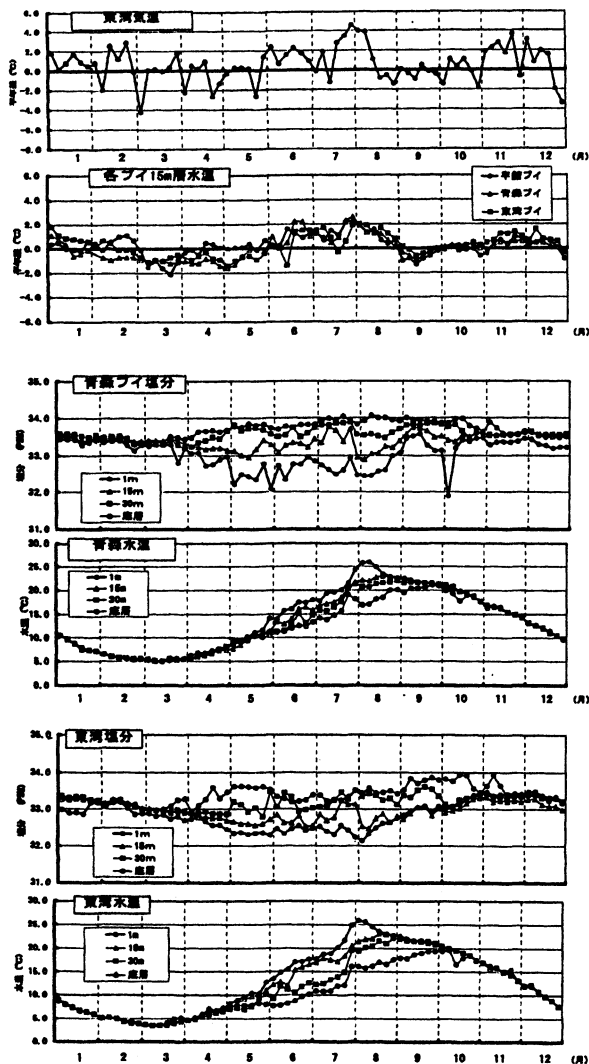
(5) 気温

東湾ブイの気温は、平年にくらべて、1月～2月はやや高め、3月～5月は平年並み、6月～8月上旬はやや高め～かなり高め、8月中旬～10月は平年並み、11月～12月はやや高めに推移した。日平均値の年間変化範囲は-2.8～28.8℃であった。

(6) 風

1月～3月は西風卓越、5月～10月は東風、西風が交互に、11月～12月は西風が卓越した。

〈主要成果の具体的なデータ〉



水温・気温のデータは半月平均値
 溶解酸素は半月最低値
 流向流速は25時間平均値
 風向風速は日平均値

〈今後の問題点〉

陸奥湾の海況のよりの確な把握並びに変動要因の究明と変動解析モデルの構築。

〈次年度の具体的計画〉

前年度と同様に定置観測、陸奥湾海況情報の発行を継続。

〈結果の発表・活用状況等〉

- ・ 陸奥湾海況情報 (No. 466～517) 毎週火曜日発行。36 機関 (湾内市町村、漁協、県関係機関) にファックス配信、当研究所ホームページに掲載。
- ・ 陸奥湾海況自動観測システムによる日平均水温・気温のグラフを、当研究所ホームページで公開。
- ・ ホタテガイ天然採苗会議 (全 10 回)・ホタテガイに関する情報会議 (全 10 回)、春季・秋期のホタテガイ養殖実態調査に関する会議 (全 4 回) において海況情報を提供。
- ・ 東北海区海洋調査技術連絡会、海洋開発機構むつ研究所主催の懇談会で発表。